

リソナ経済フラッシュ (協調介入のインパクト)

 2024年 4月 26日
 リソナHD 市場企画部
 担当：苅谷

1 止まらない円安に協調介入？

円安が止まる所を知らない。ドル/円は約34年ぶりの上値を更新し続け、次の上値の目途は160円くらいしか見当たらなくなってきた。そんな中、日米韓の財務相会談が開催され、「最近の急速な円安およびウォン安に関する日韓の深刻な懸念」を共有したことで、市場では日韓の協調介入への警戒感が高まった。

【為替市場をめぐる国際協調の動向】

4/17	日米韓 財務省会合	「最近の急速な円安およびウォン安に関する日韓の深刻な懸念を認識しつつ、既存の20カ国・地域（G20）コミットメントに沿って、外為市場の動向に関して引き続き緊密に協議する」を共有
同日	G7財務省 中銀総裁会合	日本の主張に基づき、声明文に以下の文言が盛り込まれた 「 <u>2017年5月の為替相場についてのコミットメント</u> ※を再確認する」

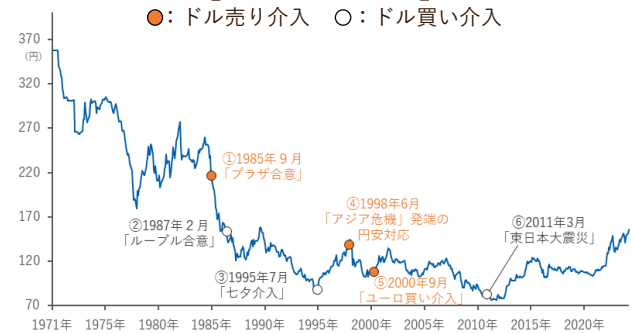
※2017年5月の為替相場についてのコミットメント：
「為替レートの過度の変動や無秩序な動きは、経済及び金融の安定に対し悪影響を与え得ることを再確認する」

2 過去の協調介入

過去に実施された協調介入の代表例である1985年の「プラザ合意」では、先進国5か国（日・米・英・西独・仏）がドル売り協調介入を実施、ドル/円は下落トレンド入りした。（右図参照）

以降、1985年の「ルーブル合意」を除いて協調介入を実施することで、ドル/円のトレンドを転換させることに成功しているといえる。

【過去の協調介入】



3 日韓の協調介入のインパクトは？

韓国は介入の実施有無や詳細などを公表していない為、外貨準備高の減少分を介入額としてみると、2022年平均で日本の5分の1の金額に留まった。（右図参照）

日韓が協調介入を実施した場合、実際の介入額は日本の単独介入比で1.2倍程度に留まると思われるが、「協調介入」であるとの事実が円高インパクトを強くするものと予想する。

【日韓の協調介入の影響の試算】

韓国は介入の実施有無を公表しないため、2022年のウォン安が進行した間の外貨準備高の減少を平均して試算

	日本	韓国	日韓
2022年 為替介入額平均 (1か月あたり)	4.55兆円	0.96兆円	5.51兆円
相場への影響 (1回あたり平均)	5.1円	? ウォン安 止まらず	5.1円+α

出所:各種報道、Bloomberg

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。